

北神けいろうの国政報告：10月号

日頃より大変お世話になっています。

○この度、沖縄県尖閣諸島沖の我が国領海において、中国の漁船が海上保安庁の巡視船に衝突してきました。現場の判断で船長を逮捕し、検察の取り調べを受けていたものの、先日、処分保留ということで釈放しました。

中国漁船の船長が意図的に衝突してきたことは、悪質な公務執行妨害行為であり、逮捕は当然です。これに対して、中国政府は様々な報復措置をとってきましたが、こうした理不尽かつ不誠実な行為には、断固抗議をします。

安倍政権下で、両国は「戦略的互惠関係」にあるということになっていますが、今回の中国政府の不快極まりない姿勢をみて、このような国は到底信頼できないことが判明しました。

○一方で、戦後の日本が国家の防衛をないがしろにしてきたツケが回ってきたことも素直に反省しなければなりません。もちろん、今回の政府の対応のうち、特に検察が法的根拠もなく「日中関係」「国民生活に重大な影響」を理由に釈放したことも不可解です。それを内閣が「了とする」のも苦渋の選択なのでしょう。

○しかしながら、今回の事件の本質は、中国が我が国に不当極まりない圧力をかけてきて、それに甘んじなければならなかったことです。これは誰が総理をやろうと、誰が外務大臣をやろうと、どの政党が政権を担おうと五十歩百歩の違いです。中国は経済規模の面でも今年日本を追い抜きます。軍事費は米国に次いで第二位であり、意図的に日本海、東シナ海のみならず、太平洋にまで軍事的に進出してきています。

こうした国が隣にいて、つきあっていかないといけないことを、この際、よくよく国民として覚悟を決めなければなりません。そして、今回の事件を率直に我が国の外交的敗北ととらえて、「臥薪嘗胆」の精神をもって、この国の根本的建直しに取り組んでいくべきです。

○本当に私たちは目を覚まさなければなりません。資源もない日本は大国として、自分の周りの海や地域を安定させる力がなければ、国民の生活なぞ到底守れないのです。中国の思い上がった、侮辱的な、身勝手な圧力をかけられる度に、唯々諾々と言うことを聞いていたのでは、全く話になりません。

今後、私は政権に対して国防を充実させて、エネルギー資源や食料を含めた総合的な安全保障戦略を構築していくことを強く求めて参ります。

(注) 先日、この件で官邸に申し入れをしました。ご関心のある方は、北神けいろうホームページより「菅政権への建白書」をご覧ください。